メディカルスタッフが知っておきたい禁煙支援と加熱式タバコや電子タバコの有害性

Medical staff need to know about smoking cessation support and the harmful effects of heated tobacco products and e-cigarettes.

【共催：歯学系学会合同脱タバコ社会実現委員会】
【共催：禁煙推進学術ネットワーク】

座長
塩田　真　Makoto Shiota
公益社団法人日本インプラント学会関東甲信越支部
Kanto-Koshinetsu Branch of JSOI

座長
柏井　伸子　Nobuko Kashiwai
公益社団法人日本インプラント学会関東甲信越支部
Kanto-Koshinetsu Branch of JSOI

本シンポジウムは医科歯科32学会が所属する「禁煙推進学術ネットワーク会議」および歯学系10学会で構成する「脱タバコ社会実現研究ネットワーク会議」との共催です．本学会は2010年5月から禁煙宣言を行っていますが，脱タバコによる社会の実現に向けて様々な努力を行ってきました．本シンポジウムでは，最近，紙巻きタバコに変わって急速に広がりを見せている加熱式タバコや電子タバコの害について，稲葉洋平先生にその現状を解説頂きます．また日常診療において，歯科衛生士を含めたメディカルスタッフが知っておきたい患者支援について，看護学における「セルフマネジメントモデル」から谷口千枝先生に講演頂きます．

歯周治療やインプラント治療において喫煙はリスクファクターとされ，オッセオインテグレーション獲得や健全な周囲組織維持のためには，治療開始前のリスク説明や行動変容とその維持が必要です．多くの会員の参加をお待ちしています．

8-1　日本の加熱式タバコと電子タバコの有害成分と喫煙者への曝露成分の実態調査

Survey of Harmful Compounds of Heated tobacco products and E-cigarettes in Japan and their Exposure to Smokers

稲葉　洋平　Yohei Inaba

国立保健医療科学院　生活環境研究部
Department of Environmental Health, National Institute of Public Health

加熱式タバコは，タバコ葉を携帯型の加熱装置で燃焼まで至らない200-350℃で加熱し，発生するタバコ煙を吸引するタバコ製品で，タールも発生する．この加熱式タバコは，紙巻タバコと比較して燃焼によって発生する一酸化炭素，多環芳香族炭化水素（PAHs），ホルムアルデヒドをはじめとするカルボニル類の発生量が減少していた．一方で，依存性物質のニコチン量は1 mg/stickと紙巻タバコと比較しても差がなく，加熱式タバコからの発生量が紙巻タバコよりも高い有害化学物質も報告されていた．また，有害化学物質の成分数はそれほど削減されておらず，有害化学物質の複合暴露は継続していた．

さらに本発表では加熱式タバコと国産紙巻タバコ銘柄を比較することによって，加熱式タバコ製品の実態を報告する．特に，ここ数年で販売された新しい加熱式タバコ製品は，有害化学物質量が過去の加熱式タバコと比較した結果も報告する．現在，日本の市場では加熱式タバコ用の加熱装置に互換機が販売されている．この互換機は，加熱式タバコスティックをたばこ産業が販売している装置以外で，加熱可能な装置となっている．この互換機の中には，加熱温度が純正品よりも高い温度で加熱する装置が販売されており，その場合の主流煙の成分量は紙巻タバコに匹敵する製品も存在していた．

最後にヒトの健康被害について考えてみる．我々はこれまでに加熱式タバコ喫煙者の曝露量の実態調査を行ったところ，紙巻タバコ，加熱式タバコとその両製品の併用者は，ニコチンの曝露量に大きな差は確認されなかった．次に，発がん性物質の曝露マーカーの分析結果は，加熱式タバコの曝露量が紙巻タバコの50%程度であった．以上の結果から，加熱式タバコ喫煙者はニコチン曝露量が高く，一部の発がん性物質は加熱式タバコからも曝露される事が確認された．

【略歴】

2003年　東京水産大学大学院　水産学研究科　博士取得
2003年　産業技術総合研究所バイオニクス研究センター　特別研究員
2008年　国立保健医療科学院　生活環境部　主任研究官
2020年　生活環境研究部　上席主任研究官
2008年からたばこ成分分析、喫煙者、受動喫煙者のバイオマーカー分析を行なっている。現在、WHOタバコ研究室ネットワークに参加し、標準作業手順書の開発を行なっている。

8-2　メディカルスタッフが行う効果的な禁煙支援

Effective smoking cessation support provided by medical staff.

谷口　千枝　Chie Taniguchi

愛知医科大学　看護学部
College of Nursing, Aichi Medical University

セルフマネジメントとは，対象者が自分の病気や症状に関する知識・技術をもち，病気と生活の折り合いをつけながら，専門家の力を得て自身で対処していくことを指す．私たちメディカルスタッフの役割は，対象者とパートナーシップを形成した上で，その人に必要な知識・技術を提供し，その人が自分らしい生活を続けていけるための自己効力（行動達成のための自信）を高める援助をすることと言われている．看護学において「セルフマネジメント」は，「自己管理」という意味とは異なる．「自己管理」は，適切に管理ができなかった時に，その責任を対象者に負わせる「自己責任」のニュアンスが強い．「セルフマネジメント」が「自己管理」と異なる点は，メディカルスタッフは対象者の行動変容に対し対等な立場で考え，その責任を共に負うという態度で関わることと言われている．

禁煙支援におけるメディカルスタッフと患者の関係も，このセルフマネジメントモデルに近い．私たちは患者の禁煙のプロセスの間一緒にいることはできないため，短い禁煙支援の間にハイリスク場面の想定とその対処法について共に話し合い，患者の禁煙を継続するための自信を高める必要がある．吸いたい気持ちが起きたとしても，患者が自ら禁煙継続を選択できるように，チームとなってサポートすることがメディカルスタッフの役割である．このシンポジウムでは，セルフマネジメント支援のエッセンスを取り入れながら，メディカルスタッフが忙しい診療の合間に短時間でできる禁煙支援について説明する．

【略歴】

平成10年　日本赤十字愛知短期大学卒業
平成22年　独立行政法人大学評価機構 看護学士取得
平成25年　名古屋大学大学院医学系研究科　看護学専攻　博士前期課程修了　修士（看護学）
平成29年　名古屋大学大学院医学系研究科　看護学専攻　博士後期過程修了　博士（看護学）
平成30年　愛知医科大学看護学部　成人看護学（療養生活支援）　講師
令和 2年　同　准教授
令和 5年　同　教授
著書：看護の科学社「事例で学ぶ　禁煙治療のためのカウンセリングテクニック」など